平成１６年１２月期　第１四半期業績の概況（連結）

平成１６年４月２６日

会　社　名　ニスカ株式会社　　(コード番号：６４１５　登録銘柄)
（ＵＲＬ　http://www.nisca.co.jp）
代　表　者　役　職　名　代表取締役社長
　　氏　　名　中里　賢次
問い合わせ先　責任者役職名　理事 管理部長
　　氏　　名　宇津　秀昭　　(Tel：(0556)22－6600(代表))

１．四半期財務情報の作成等に係る事項

① 会計処理の方法の最近連結会計年度における方法との相違の有無　：　有

(内容)

中間連結財務諸表規則をもとに、四半期財務情報を作成しております。
ただし、一部の連結子会社は、税効果会計に簡便法を適用しております。

② 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況

(内容)

該当事項はありません。

２．平成１６年１２月期第１四半期の業績概況（平成１６年１月１日 ～ 平成１６年３月３１日）

(1) 経営成績(連結)の進捗状況　　（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年12月期第１四半期	10,221	(12.9)	947	(3.5)	984	(1.9)	581	(△35.4)
15年12月期第１四半期	9,056	(－)	915	(－)	965	(－)	900	(－)
(参考)15年12月期	38,550		2,816		2,762		1,888	

	１株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後１株当たり四半期(当期)純利益
	円	銭	円　銭
16年12月期第１四半期	56	59	—
15年12月期第１四半期	87	64	—
(参考)15年12月期	180	07	—

(注) ① 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。
② 四半期の業績開示は、当第１四半期より実施しております。なお、平成15年12月期第１四半期の開示については行っておりませんでしたが、当第１四半期と同様の方法により算出した結果を記載しております。

［経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等］

当第１四半期における我が国の経済は、為替レートなどに不安材料もありましたが、輸出と設備投資に支えられ、企業業績の改善や株価が上昇するなど回復基調が続きました。

当社グループ関連市場におきましては、価格競争が一層進む中、複写機、ビデオカメラ市場はともに堅調に推移し、デジタルカメラ市場は需要の拡大に伴い、引き続き増産基調となりました。

このような環境の中、積極的に営業活動を展開しました結果、主力のペーパーハンドリング事業が伸長し、売上高は１０２億２千１百万円（前年同期比１２．９％増）となりました。

一方、利益面につきましては、国内外での生産革新など原価低減活動を推進しました結果、営業利益は９億４千７百万円（前年同期比３．５％増）、経常利益は９億８千４百万円（前年同期比１．９％増）、当第１四半期の純利益は５億８千１百万円（前年同期比３５．４％減）となりました。なお、純利益の減少は、前年同期に厚生年金基金代行返上に伴う特別利益を７億６千９百万円計上したことによるものであります。

事業の種類別セグメントの業績概況は次のとおりであります。

① ＯＡ機器関連事業

ペーパーハンドリング事業では、複写機市場でカラー機の需要が増加する中、カラー機対応の自動原稿送り装置や中綴じ機能付きフィニッシャの販売を伸ばすとともに、毎分７０枚以上をコピーする高速機に対応したフィニッシャなどが売上を拡大しました。

スキャナ事業では、ＭＦＰ市場が順調に推移する中、ＭＦＰ用Ａ３判カラースキャナを中心に売上を増加することができました。また、当社の主力製品である自動原稿送り装置を取り付けたＡ４判カラースキャナの提案営業を積極的に行い、成果を上げることができました。